



(目次)

・本に出会い、本に関わり、本と生きる	P 1
・静岡県図書館交流会に参加して	P 2
・「地の利」を生かす	P 3
・葵文庫と空襲	P 4
・夢膨らむ科学絵本の読み聞かせ	P 5
・図書館からこんにちは	
市内図書館ニュース	P 6
・会員リレーエッセイ	
しずとも「ほっとコーナー」	P 7
・図書館協議会傍聴記ほか	P 8

# 本に出会い、本に関わり、本と生きる

静岡県図書館協議会委員・清水辻小学校校長 岡田 克彦



「遊ぼう」というと  
 「遊ぼう」という  
 「馬鹿」というと  
 「馬鹿」という  
 「もう遊ばない」というと  
 「遊ばない」という  
 そうして、あとで、さみしくなって、  
 「ごめんね」というと  
 「ごめんね」という  
 こだまでしょうか、いいえ、誰でも。

金子みすゞさんの「こだまでしょうか」という詩です。26歳という短い人生の中で生まれた、500編余りの詩のひとつです。人と人との「きずな」、「つながり」、「やさしさ」、「おもいやり」、「心は通い合う」ということを、私達に伝えてくれています。

校長先生が大好きな詩です。校長先生は、優しい言葉、優しい心が大好きです。

本校には、素直で明るい子、あいさつができる子、元気な子がたくさんいます。一生懸命、子供たちを支えてくれる先生方もいます。これからも安心して登校させてください。そして本校への入学が、お子様にとってすばらしい「出会い」と「成長」の機会になるよう、精一杯努力を重ねてまいります。本物に出会う授業、特に、価値ある「人・物・事」との出会いを充実させていきます…

これは、校長としての、初めての入学式式辞(抜粋)です。

入学式で、1年生と保護者、地域の方に、何を伝えようか、何日も悩みました。原稿を書いているは消し…の連続で、睡眠不足が重なりとうとう微熱も出できました。校長として辛かった時期ですが、今振り返ると充実していた7日間でした。歴代の校長もきっと私のように苦しんだのだと自分に言い聞かせて乗り越えることができました。

平成23年4月6日午前2時、入学式当日の朝ようやく原稿が出来上がりました。当時毎日のように、テレビやラジオから流れていた詩です。子供たちの耳にも強く残っていて、私が入学式で朗読を始めると、いつのまにか、子供たちも声を合わせ、体育館一杯に広がりました。まさに「こだま」のようでした。

それから4年目の今年の入学式でも、「こだまでしょうか」を伝えました。東北大震災の悲しみを過去のものにしないために、当時の優しい心を思い起こすために…

6月に授業参観で来ていた1年の保護者から、「こだまでしょうか、私も大好きになりました。金子みすゞさんの詩を探して読みました。お勧めの本をこれからも教えてください。」という言葉いただきました。うれしい一言でした。

私が出会った「こだまでしょうか」を、これからも、いろいろな場で伝えていきたいと思っています。ちなみに、私の校長室は新刊本で一杯です。校長室を訪れた全ての子供たち、先生方と、本の話をしています。辻小学校の図書室も、司書教諭や学校司書さんが選んだ、お勧めの本で一杯です。

# 静岡県図書館交流会に参加して

豊田市市民グループ

子どもと本をつなぐ会 代表 竹内純子

今回の交流会に参加して、「無意識の内にく本来あるべき姿>を見失うことへの危惧」をあらためて感じた。当たり前であること、大切にされるべきことが、ないがしろにされていないか…。各講師の話はどれも「本質を見失ってはいけない」という強い思いを発信していると感じた。

福山氏の話は、IT社会におけるプライバシーについての入り口の話、初心者にもわかりやすく話してくれた。企業の利益が優先される中、無関心でいたら個人情報はどうなっていくのだろうか。「自由を守る活動は行政にも企業にも期待できない。」という言葉が印象に残った。

草谷桂子さんの報告は、東日本大震災のあと、自分にできることを精一杯実践する草谷さんの行動力と、困難な状況の中で図書館を再生しようと奮闘する図書館員の姿に胸を打たれた。図書館が本来の役割を発揮するには、それを支える人材があってこそである。図書館行政を考えると、「被災地の図書館が指定管理者制度になっていたら、今回の報告のような取り組みが可能だったのだろうか」とふいに頭をよぎった。

山下氏の武雄市図書館の報告は、町おこしという視点を横におけば、確かにため息がでるものだった。児童コーナー、歴史資料館の位置づけは、市民がこれまで大切にしてきたものがどうしてこのようになってしまったのか、本質を考えることの重要性を思い知らされた。「新しいものが生まれたのではなく、大事なものがこわされた。」という言葉に山下氏の思いが集約されていた。

佐久間美紀子さんの話は、今の時代だからこそみんなで考えなくてはならない問題を提起してくれた。「図書館の自由」宣言についての詳しい年表をもとに、ゲンやアンネ他、具体的な事例を話してくれた。自分自身を振り

返ってみても、どれだけ「図書館の自由宣言」を心に留めていただろうかと反省した。昨今図書館員の職場研修に「図書館の自由」宣言を盛り込んでいないところが多くなっているという報告に、図書館の本質を見失わないための意識付けの大切さを感じた。

最後の<参加者による交流会>は、時間の関係で自己紹介が割愛されたが、私もそうであったように、参加者それぞれの目的があって交流会に参加したのだと思う。中途半端な意見交換で終わってしまったのは残念だったが、図書館職員、ボランティア、学校司書、市民活動をしている人、案内を見て参加した人などさまざまな立場の人が、図書館ということを中心に集まったというその事実に、静岡の図書館活動のすばらしさを感じた。もし機会があれば、違う形でそれぞれが抱えている疑問や悩みを交流できたらと思う。

本質を見失わないようにと書きつつ、さて本質とは何かを自分ひとりで考えるのは難しい。時代の変化も無視できない。沢山の人の意見を交換し、いろいろな考えを共有する中で自分なりの考えを導き出したいと思う。静岡の活動は全国の市民活動にパワーを与えている。これからも全国に発信して欲しいと願っている。



交流会風景：2014.4.27（日）

於：静岡県立中央図書館

# 「地の利を生かす」

～「ビブリオバトルを楽しもう！」セミナーを通して～

静岡市立北部図書館 主事 高橋 広晃

2014年8月、静岡市立北部図書館は例年以上に“熱い”夏をむかえていた。

セミの声が響く中、静岡図書館友の会と共催でビブリオバトル（注）を開催した。高校生や大学院生、読み聞かせボランティア、様々な年代、肩書きを持つ6名のバトルが、お気に入りの一冊をユーモアたっぷりに熱く語り合った。今回のビブリオバトルは、図書館のみならず教育現場でも活用してもらうのが目的であり、当日は教育関係者の参加も多く、粕谷亮美さんによる講演では、学校での実践事例を熱心に聞いていた。

今回のセミナーは、静岡図書館友の会が北部図書館に企画を提供してきて下さったところから始まったが、北部図書館は、安倍川や賤機山など豊かな自然に囲まれた地域館である。なぜ、わざわざこのような図書館で開催するのか、疑問に感じる方もいると思う。北部図書館で開催する理由は、ビブリオバトルを教育現場でも活用してもらいたいためである。北部図書館は、静岡市教育センターという教職員の研修を行う市の機関との複合施設であり、よく教員も図書館に来館する。そのためビブリオバトルを北部図書館で行えば、教員がビブリオバトルを知るチャンスが増え、教育現場への活用も高まるのである。教育センターも、周知用のチラシを静岡市の全小中学校の教員に配布して下さり、当日の会場も貸出してくれた。

このように、北部図書館は、教員が集まりやす

いという条件を生かし、教育現場に向けたビブリオバトルを開催できた。今回の事例のような、周辺の施設や地理的な要素といった「地の利」を生かすことは非常に重要であると感じる。図書館は、街中の商業施設内や住宅街、自然豊かなところなど様々な場所にあるため、その分、その地の利を生かした、特色ある図書館が多くあっても良いと思う。例えば、ビジネス書や農業書など、周辺の施設や環境に合わせ、一分野に特化している図書館。おはなし会や講座イベントなど、地域の住民層に合わせた行事が充実している図書館。近くに住んでなくても「この図書館だから行きたい！」と思わせてくれるような図書館も増えれば、利用者にとって面白く、図書館全体の活性化にもつながる。わが静岡市の市長の方針に「まちづくり」から「まちみがき」という言葉がある。新しいものをつくるより、もともとある素材を最大限に活かしていけば、他にはない魅力的な都市になる。図書館も地の利を生かし、そこにしかない魅力的なオリジナルの図書館をめざすべきである。

今回のセミナーを通じ、静岡図書館友の会は、図書館にとって大事な“熱い”投げかけをしてくれたように思う。

（注）ビブリオバトル：発表参加者たちがそれぞれ好きな本について発表し、最後に発表者含む来場者全員で、発表を聞いて読みたくなった本に投票するゲーム。



（静岡市立北部図書館）



（ビブリオバトル実施風景：2014. 8. 17）



# 葵文庫と空襲

静岡図書館友の会代表 田中文雄



「六月十九日 火 晴 一、定刻閉館 二、六月二十日零時頃ヨリ午前三時頃マデB29 多数（百十機ト放送）静岡市内ニ来襲、油脂、エレクトロン、小型爆弾ヲ混投全市火災ニ包マル。

（中略）東校々舎ノ火ハ便所ニ、又講堂裏ノ火は講堂便所ニ燃エ移リ火勢猛烈を極メ加フルニ烈風之ヲ煽リ、廊下ノ煙烟突ノ如ク、熱風吹キ入ル、殊ニ一階及二階書庫入口附近ノ窓枠、事務室ノ窓掛等、燃エ始メタレバ、水ヲ浴ビツツバケツヲ以テ消火ニツトム（後略）」。

この文章は葵文庫（現県立中央図書館）の『昭和20年度 宿直日記』の一部です。当時葵文庫は旧駿府城二の丸跡にあり、「東校」とは城内東国民学校（前身は城内東尋常小学校）です。

『宿直日記』を書いた加藤忠雄館長の命を懸けた消火活動等により、講堂などは焼けましたが、本館と書庫は焼失を免れました。

『静岡・清水空襲の記録』（平成17年、静岡平和資料館をつくる会発行）によるとアメリカ軍のこの日の爆撃中心点は本通りと呉服町の交差点であり、一分間一機という数で、B29は焼夷弾等を市街地に落としました。県庁、市役所、葵文庫など鉄筋コンクリート製の当時の建物が中心街に残るのみで、市街地の66%が焼失し、死傷者は8,400人以上にのぼりました。

同じく県立中央図書館に保管されている昭和20年度の『事務室日記』によりますと、昭和20年は1月3日から空襲警報が頻繁に発令されていることが分かります。全国的に図書館の蔵書の疎開の動きが出てくる中、葵文庫は比較的早くから疎開に着手しました。『事務室日記』

の3月7日に「文庫長貴重図書疎開先調査ノタメ安倍郡玉川村方面出張」、3月8日に「貴重図書疎開荷造手配」、3月9日に「文庫長貴重図書疎開先調査ノタメ龍爪方面出張」とあり、3月18日から26日まで5回にわたり貴重図書を疎開先に運搬しています。

ここでの「貴重図書」は具体的にどのような図書か書かれていませんが、今でも貴重書として大事に保管されている「江戸幕府旧蔵書」（注1）と久能文庫（注2）だと思われます。この疎開の後、辞書類などの図書の疎開も考えていたようですが、実施前に6月20日の空襲を受けることになりました。

また『昭和二十年四月以降災害関係綴』には市民が借りていた図書が空襲により焼失してしまったため、図書館に提出したガリ版刷りの始末書が残っています。その図書の数は1,500冊にのぼり、戦時下にもかかわらず、多くの市民が図書館を利用していることがわかります。

（注1）葵文庫が中央図書館と改名したので、徳川家関係者の寄付金などによって建てられた縁で、この蔵書は現在は『葵文庫』と言われる。

（注2）：3代県令・初代県知事関口隆吉が収集したもの。



空襲後の静岡市街（ウィキペディアより）

# 夢膨らむ科学絵本の読み聞かせ

静岡科学館 館長 長澤友香



静岡科学館では、子ども達の科学への興味・関心を高めるために絵本の読み聞かせを行っています。自然や科学のテーマに沿って絵本を読んだ後に、そのテーマに関わる実験や観察をします。そのいくつかをご紹介します。きっと絵本を通して、科学への夢が膨らんでくることでしょう。

まず集まった子ども達に「白い紙に大きく虹を描いてみましょう。」と問いかけます。「虹色って何色があつたっけ?」「僕、この間お空に大きな虹を見つけたよ。」子ども達はクレヨンを手にし楽しそうに語りながら大きな虹を描いていきます。

こんな時に読む本が『にじをつくったのだあれ?』(作 ベティ・アン・シュワルツ 絵 ドナ・ターナー 文 鈴木ユリタカ 世界文化社)です。ページを捲る毎に、赤・橙・黄色・緑・水色・青色・紫の生物が登場し、カラーリボンがとび出してくるしかけ絵本です。この話の最後には「虹を作ったのはおひさまのひかり」という言葉。ここで分光器(分光シートでも可)が登場。分光器を覗くと、そこには虹の帯が見られます。

『にじいろのさかな』(作 マークス・フィスター 訳 谷川俊太郎 講談社)の絵本には、にじうおの絵に美しいレインボーシートが貼られています。このお話を使って楽しいパネルシアターを作ってみました。鱗

にはレインボーシートを使いました。小さな魚たちに自分の身体についている七色に輝く鱗を一枚ずつあげていきます。身体を覆う虹色の鱗を友達に分け与え、たった一枚だけになった輝く鱗、でもにじうおはとても幸せそう。話を聴く子ども達の表情もとても幸せに満ちています。「ところでみんな、虹色ってどんな色かな?」この本を読んだ後に分光シートを通して電球の光を見ます。子どもも大人も、歓声をあげる一瞬です。

絵本を活用した自然観察は、身のまわりの生物の生態や身体づくりに目を向ける機会としてよく活用されます。静岡科学館では、夏休み期間に駿河湾の深海に棲む巨大なダンゴムシの仲間、オオグソクムシの標本を展示し、身近に見られるダンゴムシと比べながら観察できるコーナーを設置しました。絵本を通して自然や生き物に興味・関心を持って欲しいと願い、ダンゴムシに関わる科学絵本も展示しています。

子ども達の“幼少期における科学リテラシーの涵養”において、最も重要であるのは「感性を磨く」ことであると考えています。「不思議だ」「試してみたい」という“センス・オブ・ワンダー”の世界を、科学絵本を通して広げてみませんか。



『にじいろのさかな』パネルシアター



(オオグソクムシと絵本の展示)

# 図書館から こんにちは

## 「本好きの小さいけど確実な幸せ」

静岡市立北部図書館 館長 宮本 博之

子供の頃から本屋さんが大好きで、休みになると必ずどこかの書店へ立ち寄ります。そして感じるのは、ここ数年、静かな本屋さんブームが起きているのではないかとことです。雑誌でも書店、古書店が繰り返し特集され、個性的な書店を紹介した本もよく目にします。

先月、休暇で暑い暑い京都に行き、そうした記事で有名な恵文社一乗寺店とガケ書房をのぞいてまいりました。本屋さんのセレクトショップ版と言ったらよいでしょうか。テーマごと棚に集められた本のセレクトに主張があるし、レトロな店内もいい感じです。

そして選書自体を業とするブックディレクターという職業も生まれています。美容院、銀行、といった本とは関係がない場所に、周到なリサーチの上、場に合わせた本のコーナーを置くことで、その場所を人が集まる、メッセージ性のある特別な場所に変えていく。本の力は、いまだ格別なものがあるようです。

大学生の読書離れ、書店数の減少など本にとって暗いニュースを聞きますが、こうした現象を目

にすると、まだまだ本の世界でもやれることがあるんじゃないかと思えてきます。

図書館に足を運び、リクエストをし、気に入った本は手に入れ、お気に入りの書店に出掛ける、といった日常は、小さいけど確実な幸せを与えてくれます。

本好きにとって図書館も本屋さんも両方が必要です。図書館で借りて読んでも、気に入った本は購入して手元に置きたくなります。

図書館がよく利用され、本の世界に親しんでいる人が多いから、書店も本がよく売れる。静岡市がそんな街になればいいなど、本好きのひとりとして思っています。

### 【参考資料】

- 『本の声を聴け』（請求記号 289.1/ハハ）北部図書館ほか所蔵
- 『街を変える小さな店』（請求記号 672.162/ホ）美和図書館所蔵
- 『ソトコト 2014-2 なじみの本屋』（請求記号 2）中央図書館、御幸町図書館所蔵

## 市内図書館ニュース

### よりよいYAサービスを目指して ～コンクール、ビブリオバトルを開催します～

静岡市立中央図書館

静岡市立図書館では、13歳から18歳のYA（ヤングアダルト）世代に向けたサービスとして、YAコーナーの設置や、ティーン向け図書館PR誌Lmagazineの発行、市内高等学校でのブックトークなどを行っています。今年度、YA世代の図書館利用をより促進する目的で始めた新たな取り組みをご紹介します。

1つ目は、「ズイチYAグランプリ」です。これは10代の少年少女に、読んで感動した本や、お薦めしたい本に投票してもらい、1位を決める本のコンクールで、現在開催中です。結果は来年

1月6日（火）、市立図書館、図書館ウェブサイト、Lmagazine2015年1月号誌上に発表しますので、ぜひご覧ください。

2つ目は、「YAビブリオバトル」です。9月23日（祝）午後2時から中央図書館1階おはなしコーナーにて、YA世代にお薦めしたい本をテーマにビブリオバトルを開催いたします。どなたでも参加いただけます。詳細は図書館ウェブサイトや市立図書館で配付のチラシをご覧ください。皆様のご参加をお待ちしております。





### 「美和図書館」開館5年、美和図書館友の会4年

美和図書館友の会 新村 直樹

静岡市の北西に位置する美和地域に公立図書館ができて5年経ちました。

美和図書館（私たちは、親しみをこめて、こう呼んでいます。正式には、中央図書館美和分館）は、ご承知の方も多いと思いますが、住民と市民の願いをもとに、16年の運動でできました。その苦勞と喜びは、美和地域に公立図書館をつくりたい、つくろうと活動した「おおばこの会」発行の「美和図書館誕生！」に記されています。

昨今、公立図書館の民営化の動きが全国各地であり、静岡市の図書館もその危険にさらされました。この動きをストップさせ、公立図書館を守ることに静岡図書館友の会とともに美和図書館友の会も微力ながら一定の力を発揮したと思っています。

私たちの会は、日頃は、より充実した、そして

地域に溶け込んだ図書館にしていくため活動をしています。また「美和図書館」ができたことを契機に「美和読書会」を立ち上げ、月1回のペースで読書会を開き、時には文学散歩（フィールドワーク）なども行って、読書を楽しんでいます。どんな本（作品）を取り上げてきたかについては、機会があればまた書かせてください。

これからも「美和図書館」の蔵書の充実、利用者の増加を目ざしてより充実した活動をしていく積りです。加えて、私としては、施設の充実（視聴覚室、学習室、会議室など）と、図書館と「友の会」との共同でイベントができるといいなと思っています。お茶の里美和にある「美和図書館」へどうぞお出かけください。

## ～しづとも「ほつとコーナー」～

### 貸本屋スピリット

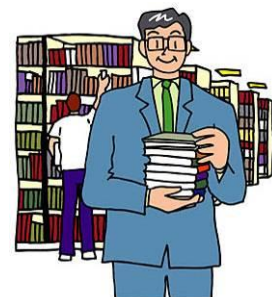
静岡図書館友の会 北川 光雄

昭和20年代のはじめ、中学生であったぼくの住んでいた町の駅前商店街に貸本屋があった。曖昧な記憶ではあるが、寡黙なオヤジさんは消しゴムで丁寧に汚れをとり、しみをぬき、雑誌や本に透明紙のカバーをきちんとかけていた。『世界』や今はない『改造』などの総合雑誌とならんで、カストリ雑誌も店頭で平積みされていた。戦後の、本や活字に飢えていた時代の背景もあって繁盛していた。

昭和50年代、勤務校で貸本屋（図書館）のオヤジさんの仕事がまわってきた。そのころ、あるかたから蔵書の寄贈を受け、その整理にあたった。古い雑誌や本の皺を伸ばし、ページを確かめながら配架していった。吉田東伍の『大日本地名辞書』のような貴重本もあった。

雑誌や本の氾濫する時代だからこそ、必要な作業だったのかもしれない。

このごろ、図書館で児童の絵本に接することが多い。そこでみえてきたのが、絵本に汚れや修復を要する破損の多いことである。こどもにこそ、汚れのないきれいな絵本を提供すべきであろう。図書館聖域論を唱えるのもいいが、身近な資料に謙虚に目を向け、心を配りたい。かつて接した貸本屋の風景は、ぼくのなかに生きている。



## ■ 「平成26年度 第1回 静岡市図書館協議会」を傍聴して

静岡図書館友の会 運営委員 清 尚子

去る7月23日(水)に静岡市立中央図書館の1室にて「静岡市図書館協議会」が開かれました。協議会の委員は市民公募2名を含む10名で、その内の1名はしずとも運営委員の稲垣洋子さんでした(ひびきの会より選抜)。事務局側は教育部長や静岡市の図書館12館長などでした。

今年度第1回目という事で各館からの報告や予定が主な議題でしたが、各館特徴のある取組みや学校・保育園との連携事例などが挙がり、委員から賞賛と激励の言葉が出ました。また、図書館事業をもっと市民に広げてほしい、良い取組みが今後も継続してほしい、などの意見が出され、図書館も更なるサービス向上に取り組む姿勢を示されました。委員の方々は普段から図書館に深く関心を持っていて市民目線で図書館を見守り、協働で育てていこうとする気持ちが汲みとれ、とても頼もしく思いました。傍聴者の私も委員の皆さんと図書館に応援を送りたい気持ちになりました。



## ■ (2014年度第2回) 「図書館セミナー」のご案内 ～ お気軽にどうぞ ～

- ・日時：11月23日(日)、13時～16時
- ・会場：静岡市立南部図書館 2階 視聴覚ホール
- ・申込：不要(入場無料) ※ 定員：200名
- ・タイトル：「図書館の世界へようこそ」～絵本・映画の中の図書館～
- ・内容：① 「絵本の中の図書館」  
(講師) 草谷桂子氏：児童文学者、家庭文庫「トモエ文庫」主宰、静岡図書館友の会
- ② 「ブックトーク」  
図書館員によるお薦めの本
- ③ 「映画の中の図書館」 ※ 図書館等に関連した映画の紹介と楽しさを語ります。  
(講師) 小澤正人氏：映画解説講師、NPO法人静岡県オーケストラスクール副理事長、  
ファイナンシャルプランナー
- ・主催：静岡市立中央図書館・静岡図書館友の会



## ■ 「全国図書館大会 東京大会」 ～ 参加してみませんか? ～

第1回の全国図書館大会は、1906(明治39)年に開催されました。その後、一時期中断はありましたが今年で記念すべき第100回大会を迎えます。今大会は、日本図書館協会が、今年1月に社団法人から公益社団法人に衣替えして最初の全国図書館大会であり、二重の意味で記念すべき大会になります。11月1日の第24分科会(市民と図書館1)では、静岡図書館友の会の草谷運営委員が報告をすることになっています。皆さん、参加してみませんか?

- ・開催日程：平成26年10月31日(金)～11月1日(土)
- ・大会テーマ：「図書館文化を明日の力に」
- ・会場と主な内容
  - 10月31日(金)(第1日目)午後1時30分～午後5時00分  
開会式・全体会 明治大学 駿河台キャンパス
  - 11月1日(土)(第2日目)午前9時00分～午後19時30分  
分科会(27分科会) 明治大学 駿河台キャンパス

静岡図書館友の会会報 No.12 2014.9  
静岡図書館友の会 代表 田中 文雄  
連絡先：(携帯) 080-6910-9434 (月一金/10-15時)  
Eメールアドレス：sizutomo2008@yahoo.co.jp  
ホームページアドレス：http://www4.tokai.or.jp/sizu.tomo/  
(会員数) 269人：2014年8月現在  
(表紙イラストデザイン：JT)

### 編集後記

・先日流しそうめんと呼ばれて行きました。皆で竹を取りに藪に入ったところ、小さい子の頭に小さい尺取り虫がついていたので取りましたが、あまりに柔らかいのでつまむのが大変でした。(Y.N)  
・男の料理教室に参加して4年。レシピを参考におかずがなんとかできるようになった。わが家で採れるゴーヤを夏バテ対策にと、図書館の料理コーナーをうろつく今日この頃。(H.H)  
・今回も多彩な原稿が集まったと思います。寄稿者の方々に深謝! 夏から秋へ、季節の移ろいを感じつつの編集作業でした。(T.Y)